

もしもしフォーラム

読者の皆さんとコミュニケーションをとりたい。
そんな思いを込めた情報ページ「もしもしフォーラム」では、
身近なニュースから心あたまる話題まで、皆さんに役立つ情報をご紹介します。

読者からのお便り

こんにちは、どうぞよろしく!

NTT東日本関東病院血液内科院内患者・家族会です。



昭島市在住 小林 文雄さん (前列中央)

血液内科疾患(白血病、多発性骨髄腫、再生不良性貧血など)は治療法が年々進み、今では「不治の病」ではなくなりました。しかし、治療が長期に及ぶことがあり、患者、家族は戸惑い、不安を覚えることが多いといえます。

私は4年前に悪性リンパ腫を発病、2年後に再発し、お世話になりました。そして、医療スタッフの皆さんの多忙な実態を知り、そうした中でも心のこもった治療・看護をされている姿には頭が下がり、感謝しています。同時に、私は入院患者同士の出会いによるおしゃべり、交流が自然とできたことにより、治療に前向きになれたと実感していました。

そうした思いが院内患者会を作りたいと願った原点です。昨年秋より、知り合った患者同士で設立に向けて動き始めましたが、口コミで賛同してくれる仲間が広がっていったことは、うれしいことでした。また、設立に当たり、院内患者会世話人連絡協議会(HosPAC)の皆さんにもご支援、アドバイスをいただき、患者会活動の広がりを感じました。

そして、血液内科部長 臼杵先生にご相談したところ、幸いにもご理解をいただき、会場の提供、ポスター掲示、病院スタッフの参加などのご協力をいただくことができ、今年の3月に発足しました。

同じ病院で治療を受けている患者・家族が集まり、お互いの悩み、不安、希望など、いろんなことを語り合います。あるときは、笑い声がたくさん響き、時には深刻な話も出ます。患者同士の出会いの中では、垣根は無くなってしまふようです。もちろん、治療法についての適切なアドバイスができるとは限りません。しかし、悩みを共有し、治療をお互いに後押しすることはできます。私はそれを「患者力」と呼び、患者のQOL^{*}を高めてくれる大きな力があると考えています。

原則として NTT東日本関東病院血液内科で診療を受けている人であれば、外来・入院、患者・家族を問わず、どなたでも参加できます。まだ生まれたばかりの会です。皆さんと一緒に作っていきましょう。どうぞ気楽にご参加ください。あなたの仲間が待っています。

※QOL: Quality of Life 生活の質、生命の質

ご案内

- 開催日時** 偶数月の第2土曜日 13:00~15:00
- 会場** レストラン・テラス池田山(特別室)
- 会費** ありません
- お約束**
 - 参加者相互のプライバシーやお互いの立場を尊重しましょう。
 - 患者会での話は一つの情報の範囲であり、治療の選択は主治医などと相談して決めましょう。などお願いしています。
- 連絡先** 小林 電話: 042-541-8745
- 今後の開催予定日**
 - 2008年12月13日(土)
 - 2009年2月14日(土)

まめちしき

多列検出器型 CT

(multidetector CT, MDCT)



放射線科 部長
町田 徹

MDCTとは?

今回は、当院放射線部に新しく導入された最新の多列検出器型CT (multidetector CT, MDCT)について説明します。

コンピュータ断層撮影(CT)がわが国に導入されてから、すでに30年以上経ちます。その間のCTの進歩には目覚ましいものがあり、検査時間は大幅に短縮され、当初1枚の画像を得るのに数分を要していたものが、現在では数百枚の画像がわずか数秒から十数秒で撮影できるようになりました。では、MDCTとはどんなCTでしょうか? その利点はどこにあるのでしょうか?

MDCTの仕組み

初期のCTは、X線管から出る細いX線束を人体の周囲から照射し、透過したX線を計測して、画像を構成していました。照射されたX線ビームに対応する検出器は1列しかなく、順次テーブルを移動して、目的部位のスライスを積み上げ、検査を終了します。従って、X線束はある程度厚くないと効率が悪くなります。

また、縦に長い構造物では、その輪切りのスライスを積み重ねていくため、検査を終了するには時間がかかってしまいます。

MDCTはこの検出器を多列配置し、照射X線を円すい状とし、一気に多数の断面像を得ようとするものです。検出器を小さくし、列数を増すことで細かい画像を速く撮影することが可能となります。MDCTの検出器は4列から8列、16列、64列(図1)と多数配置されるようになり、現在では256列のものも実用化されています。現在のMDCTは1mm以下の分解能を持ち、非常に高速、かつ容易に患者さんの3次元データが取得できます。こうして取得されたデータは、コンピュータ処理され、任意の断面を画像として私たちに提供することができます(図2A、



2B)。また、必要に応じて、3次元画像も簡単に作成することができます(図2C)。情報量が飛躍的に増えており、患者さんのメリットは計り知れないものがあります。

CTの検査について

CTは大変有効な画像診断法ではありますが、一定の放射線被ばくもありますので、検査を乱用することは厳に慎まなければならないところです。被ばく線量は意外に少なく、通常成人の場合はほとんど問題ありませんが、小児や若い女性では、より慎重な検査の適応決定が望まれます。

MDCTは、患者さんの人体内を精密に観察する非常に有効な手段であり、あらゆる疾患が検査の対象となります。

MDCTのデータ

造影剤投与前腹部CT(図2A)では、大動脈の著明な拡張(図2A赤矢印)と血管壁の石灰化(図2A青矢印)が見られています。造影剤投与後CT(図2B)では、動脈瘤内の血流のある部位が白く写っており(図2B赤矢印)、その周囲の血栓は、造影剤投与前と同じ灰色に描出されているのが分かります(図2A参照)。図2Cは、約15秒間の1回撮影で得られた画像データから再構成された3次元画像です。大きな動

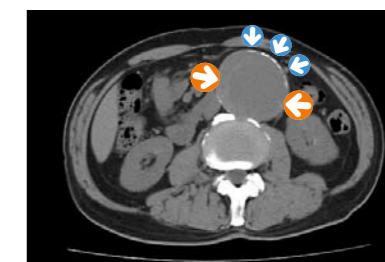


図2A. 腹部大動脈瘤 造影剤投与前CT

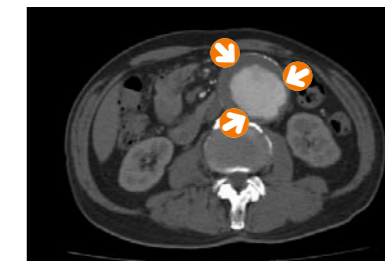


図2B. 腹部大動脈瘤 造影剤投与後CT

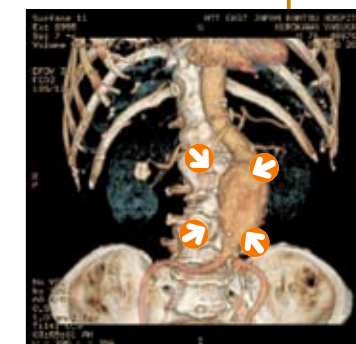


図2C. 腹部大動脈瘤 3次元画像

図1. 当院64列MDCTの概観

建物案内

アトリウムについて

多くの外来の患者さんやお見舞いの方が、毎日このNTT東日本関東病院を訪れています。人々を温かく迎えてくれる解放的なアトリウムは、快適な空間としてだけでなく、人々を安全に誘導できる病院全体のシンボル空間になっています。

環境計画、十分に配慮されたこのアトリウムについて紹介します。

分かりやすい空間、そして快適で活気ある空間

複雑で迷路のようになりがちな病院建築においては、空間構成を分かりやすくすることが患者さんにとって、第一に優先される条件です。

病院の中心部にあるアトリウムは、長さ96m、幅9m、2~3層の大きな空間であり、各部門のつながりをもたせるとともに、エスカレータ、階段、建物の構成が分かりやすく、患者さんの基本的な流れ(受付・診察・検査・治療・計算・会計・投薬)の中心であるため、自分がどこにいるか、何階にいるのかが容易に把握できます。

また、光あふれるアトリウムは、患者さんを優しく迎え入れ、上空の青空や、窓からの景色を見ることができ、不安で気の滅入った患者さんに対して、開放感や健康的なイメージを与えてくれます。

なお、誘導の基本となるサインにおいては、患者さんの行動特性を踏まえた上で適切な配置をしています。色については、高齢者疑似体験眼鏡を作成し、加齢による色彩変化に対応しているか検証し、さらに

表示面にダイヤ柄を施すことにより、サインであることの暗示や認識につながる仕掛け作りをしています。

環境計画

太陽からのエネルギーを大きく受けることによる夏場の床面温度上昇や、冬場での床面冷却に対する配慮として、床冷暖房システムを導入し、夏場の冷房による床面結露を防止するために、床表面温度が26℃を下回らないように温度を制御しています。

アトリウムのガラスには、特殊ガラスを用いて日射を60%程度減らしたり、室内の熱損失を20%程度減らすとともに、室内の温度、外部の温度、降雨センサーなどにより、自動的に自然換気を行い、省エネに寄与しています。



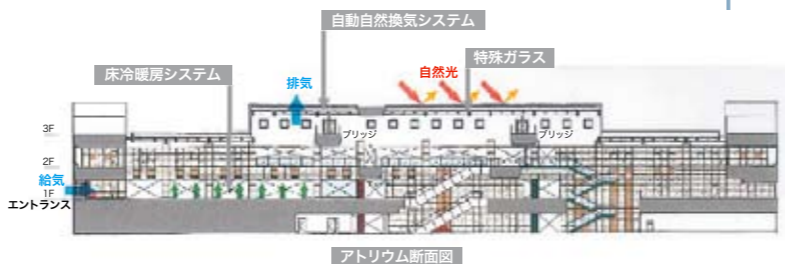
アトリウム



外来待合入口



中央待合



アトリウム断面図

イベント

オータムコンサートを開催!

入院患者さんの心を和ませる音楽のプレゼントとして、毎年開催しているNTTフィルハーモニー管弦楽団・NTT合唱団による「オータムコンサート」を9月17日(水)夕刻に開催しました。

今年は、合唱団による「見上げてごらん夜の星を」で始まり、美しい合唱に導かれて入院患者さんが、ボランティアおよび看護師の皆さんとともに、1階エントランスホールや2階通路に集まってこられました。

管弦楽団の演奏は、ビバルディの「四季」のバイオリンの独奏など4曲で、美しいメロディーがホールに響き

渡りました。演奏の最後には合唱団も加わり、会場の全員で「あかとんぼ」を歌った後、閉会しました。

参加された患者さんは、病室へ帰られる途中にもメロディーを口ずさむなど楽しいひとときを過ごされた様子でした。次回のコンサートも皆さんに楽しんでいただけるように企画いたしますので、よろしく願いいたします。



ボランティア募集

病院ボランティアへのお誘い

当院では、病院職員の手助けのための活動ではなく、患者さんや家族のために、健康回復を願ってくださるボランティアを募集しています。活動の場は広く、外来、図書コーナー、緩和ケア病棟で、総勢100名近い老若男女の方が活躍しています。

当院のボランティアは、定期的にいらしていただける方なら資格を問いません。ぜひボランティア事

務局までご一報ください。(登録にあたっては、健康診断を受けていただきます)

あなたの時間を少しだけ、病気でお困りの患者さんやご家族のために提供していただませんか? ご連絡をお待ちしております。

NTT東日本関東病院
ボランティア事務局

電話/Fax:03-3448-6125
E-mail:volunt@kmc.mhc.east.ntt.co.jp
http://www.ntt-east.co.jp/kmc/oshirase/volunteer.html

投稿コーナー

“もしもし”川柳

テーマ:医療・健康

川柳のご応募をありがとうございました。

お送りいただいた中から、優秀作品をご紹介します。引き続き、読者の皆さんからの素敵な川柳をお待ちしております。



141-8625

東京都品川区東五反田5-9-22
NTT東日本 関東病院 総務担当 “もしもし”事務局
電話:03-3448-6651 FAX:03-3448-6617
E-mail:pr@kmc.mhc.east.ntt.co.jp

発表:随時本誌に掲載します。掲載された場合でも、賞品などはありません。
応募上の注意:●応募作品は、本人が創作した未発表のものに限ります。
●応募作品は、返却いたしません。

| | | |
|-----------------|-----------------|------------------|
| 雅号 磯貝さん | 雅号 桂さん | 雅号 春鶴さん |
| あちこちが訴え始める我がからだ | 散歩道お互いに励みあうなじみ顔 | ウォーキングはじめて我が町再発見 |
| | | 轟音のエムアールアイ耐えて春 |
| | | メタボ戦冴える外科医の小西節 |

健康レシピ

12月の行事食

クリスマス・イブ(12月24日)

【献立】

*ロールパン *牛ヒレスステーキ *エビのマリネ *サラダ
*コンソメスープ *果物 *ケーキ

牛ヒレスステーキ

【肉】

肉は1.5~2cm ぐらいの厚さが最適です。

【下味】

塩・コショウ
焼く直前に下味(塩・コショウ)をつけるようにしましょう。早くから下味をつけてしまうと身がしまり、硬くなってしまいます。

【焼き方のコツ】

焼く1時間前(冬は2時間ぐらい)には、室温において置きましょう。冷蔵庫から取り出してすぐに焼



いてしまうと肉が冷たくて火が均一に通りにくくなります。はじめは強火で表面をさっと焼き、それから火を弱めて焼くのがコツです。表面を強火で焼くのは、うま味を逃がさないためと、焦げたときのおいしい香りをつけるためです。

【仕上げ】

仕上げにしょうゆを2~3滴フライパンに落とし、ワインを振りかけてパッとアルコールを燃やすと香りがよくなります。

栄養部